

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 14 日現在

機関番号：82668

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26450498

研究課題名(和文) 地域指向型の公園管理に関する研究

研究課題名(英文) Study on Region-Oriented Park Management System

研究代表者

平松 玲治 (HIRAMATSU, Reiji)

一般財団法人公園財団(公園管理運営研究所)・その他部局等・上席主任研究員

研究者番号：50455482

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究においては、都市公園と周辺地域が持続的に共存・共栄をもたらすマネジメントの仕組みについて検討した。都市公園を対象とした管理運営実態調査、ヒアリング調査、並びに文献調査を行うことにより、わが国の地域に貢献する都市公園の管理運営の現状と課題の整理を行った。また、国営みちのく杜の湖畔公園における公園管理事例の調査、関係者へのヒアリング調査をもとに、地域に貢献する公園管理手法とその課題について示した。

研究成果の概要(英文)：In this study we examined sustainable management system to bring mutual prosperity between urban parks and their surrounding regions. We investigated park management in Japan through questionnaire, literature and interview surveys. Based on these survey results, we have organized current status and problems of the park management contributing to the regions in Japan. In addition, targeting Michinoku Lakewood National Government Park, we showed methods and problems of the park management system contributing to the regions based on investigation of park management practices in Michinoku Lakewood National Government Park and the interview survey to its stakeholders.

研究分野：造園学

キーワード：都市公園 国営みちのく杜の湖畔公園 地域連携 地域貢献 保全と活用 公園管理 ステークホルダー  
ー マネジメントシステム

1. 研究開始当初の背景

本研究の着想は、研究代表者の博士論文「利用ポテンシャルに基づく利用者指向型の公園管理に関する研究」を遂行する過程から導き出されたものである。当該研究では、国営公園を研究対象に、利用促進策が公園利用の量的・質的向上に及ぼした影響を捉え、整理・評価することによって、利用者指向による公園サービスの提供が可能である新たな公園管理像(利用者指向型の公園管理)を提示した。当該研究により、利用者指向による公園管理を実現させるためには、公園の既存資源を活用するハード活用型公園管理手法、公園以外の知見を導入するソフト導入型公園管理手法、市民参画の受け入れる市民参加型公園管理手法が有効であることが明らかとなっている(表1)。

表1 利用者指向の公園管理手法

	主な目的	内容
ハード活用型	利用者数を増やす	公園の既存施設や空間を活用したイベントの開催など
ソフト導入型	利用内容を多様化	既存の環境教育プログラムの公園への導入など
市民参加型	新たな利用を創り出す	市民ボランティアによる公園の管理への参加など

また、予算消化・メンテナンス優先・発注者指向であった従来型の公園管理から、目標達成型・マネジメント優先型・利用者指向である利用者指向型の公園管理に移行すべきであると提案した。その反面、公園内で完結もしくは公園だけが利益を享受する方法論ではなく、環境保全、生活文化の継承、景観形成、広報や観光のネットワーク化、公園関連の経済活動、防災等、地域の振興や活性化の観点に基づいた公園管理のあり方が課題となった。これらの課題を解決するためには、当該研究で提案した利用者指向型の公園管理から更に進めて、課題発掘・地域マネジメント優先・地域指向である「地域指向型の公園管理」を構築し、実践に移行すべきだと考えられる(図1)。

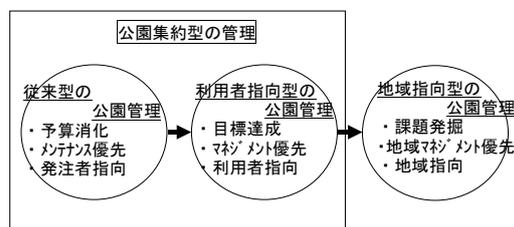


図1 地域指向型の公園管理

2. 研究の目的

本研究は、都市公園が地域の環境保全や経済的な活性化に寄与できるマネジメントの方法論を示すことを目的としている。特に大規模な都市公園では、地域において良好な環境を形成する骨格となり、環境保全や防災等を実践する活動の拠点や公園を含んだ地域内の自然・歴史・文化等の情報の発信源とし

て機能することが期待される。一方、住宅地や商店街では地域(エリア)全体の環境形成や価値向上を目指すエリアマネジメントが実践され始める等、地域レベルでの良好な環境や地域価値の維持・向上は社会的な要請であるといえる。そこで、公園が自然環境、歴史・文化、経済、防災等の面から、周辺地域と持続的に共存・共栄できるマネジメントの仕組みを構築することにより、社会資本である都市公園の存在価値、利用価値の向上に貢献する。

3. 研究の方法

本研究は、平成26年度から28年度の3箇年にわたり、以下により行われた。

- (1) 文献調査及びアンケート調査により、都市公園全般における地域と連携した公園管理の現状と課題を整理する。
- (2) 管理担当者及び地域のステークホルダーを対象とした現地調査により、研究対象である国営みちのく杜の湖畔公園における地域と連携した公園管理の現状と課題を整理する。
- (3) 地域に貢献するために必要な公園管理の諸条件を確認する。
- (4) 地域の環境の保全・活用に寄与する公園管理について検討し、手法を確立する。
- (5) 地域振興に寄与する公園管理について検討し、手法を確立する。
- (6) 研究対象地における管理手法を検証し、適用上の問題点と改善策を検討する。
- (7) 地域指向型公園管理システムを開発し、提案する。

4. 研究成果

(1) 地域指向型公園管理の課題設定

地域指向型の公園管理を構成する具体的な方法論を提示する必要がある。そこで、研究の背景や既往研究の動向を踏まえて、下記の通り三つの課題を設定した。

① 公園から地域へ波及させる公園管理

都市公園の整備ストックを有効に活用するためには、公園が保有する自然資源や歴史・文化資源等を的確に評価し活用することが求められる。これらの資源は公園を包含する地域全体の財産でもあるため、公園で適切に保全・活用することが地域に対しても効果を波及させているともいえる。このように、公園が起点となり地域に対して影響や効果を波及させている管理運営があり、「地域波及型公園管理」として整理できる。

② 地域の課題を受け入れる公園管理

地域には、少子・高齢化、健康・医療、雇用・経済、防災・防犯等のさまざまな課題を有しているが、都市公園はそれらの解決の一部を担うことも期待されている。公園が地域の課題を解決するためには、空間の活用や公園利用のかたちで公園が何らかの状況を受

け入れることとなる。このように、公園が地域の有する課題を解決するために行う管理運営があり、「地域課題受入型公園管理」として整理できる。

### ③公園と地域が協働・連携する公園管理

都市公園に限らず公共事業は地域に開かれた存在として、地域からの参画や住民が協働できる機会の提供が求められている。故に、地域内で関係する周辺住民・各種団体・企業等の多様な市民による参画を受け入れた公園管理が必要である。このように、公園が地域と協働・連携して行う管理運営があり、「地域連携型公園管理」として整理できる。

## (2)地域に配慮した公園管理の実態

### ①地方公共団体における地域に配慮した公園管理の実態

全国の公園管理実態を把握するため、322箇所の地方公共団体を対象にアンケート票の送付・回収により調査を行い、地域貢献の観点から行われている管理運営状況を概括した。その結果、地域に貢献する公園管理については管理担当者の関心、理解はあるものの、予算、人員等の制約で思うようにはできていない、公園愛護会等の従来からの地域との連携方法について高齢化に直面し継続に懸念があるなど問題点があげられた。

### ②指定管理者等における地域に配慮した公園管理の実態

都市公園に導入された指定管理者制度が定着し、民間事業者等の取り組みの創意工夫や改善などにより、公園と地域を結ぶ関係を徐々に構築し、その活動が公園内にとどまらず、地域の活力へと広がる姿が見られる。そこで、指定管理者等による地域に配慮した管理運営が実施されている三箇所の公園を対象として、直接現地に訪問してヒアリングによる調査を実施し、特徴や課題について整理した。その結果、京都府けいはんな記念公園では環境保全と地域活性化を目指した管理、福岡市かなたけの里公園では地域の農業に関わる空間と営みを保全した管理、国営備北丘陵公園では地域の観光振興に寄与する管理が実施されていることが確認された。

### ③みちのく公園における地域の関係者との連携・協力の現状と課題

国営みちのく杜の湖畔における利害関係者(ステークホルダー)との関係性について、ヒアリングによる調査を実施して回答内容を整理し、その現状と課題について考察した。その結果、みちのく公園とステークホルダーの関係性は、カテゴリー単位で特徴が見られるため、「関わり方」と「ニーズや期待」の観点から整理できることが確認された。また、教育、産業、歴史・文化、自然保護の面でみちのく公園の整備・管理が地域貢献に役立っていること、ニーズの把握とそれに対応する

フィードバック、情報提供の強化、関係の継続が今後の課題であることが把握された。

## (3)地域波及型公園管理論

### ①生物多様性や環境への配慮

国営みちのく杜の湖畔公園を対象とした動植物保全・活用の現状について、おもに当公園の「自然共生園」及び「里山地区」の事例をもとに整理し、地域の自然資源の保全・活用に寄与する公園の管理における現状と課題について考察した。その結果、動植物保全・活用の取組みを実施することにより、地域の景観や自然の再生や継承がなされていたこと、自然の魅力や地域性を活かしたプログラムが提供されていたこと、地域と協働による公園運営が行われていたことが改めて確認された。また、今後の課題として保全目標と成果を明確化、保全と活用のバランス、管理作業としての基準(マニュアル)化やそれらを総括した管理システムの構築があげられた。

### ②景観の形成

都市公園において、主要な構成要素である樹木(修景木)は、地域の景観の向上に寄与しているだけでなく、さまざまな効果・効用がみられる。そこで都市公園における地域の景観の形成について、環境保全や地域振興の観点から修景木の存在価値と利用価値を示す事例から考察した。その結果、修景木には、生物多様性保全、歴史的価値を有する、市民の愛着、地域のシンボル化などの存在価値があり、観光振興、地域活性化、賑わいの演出、地域への経済波及などの利用価値があることが確認された。

### ③歴史資源の保全と活用

国営みちのく杜の湖畔公園内の古民家等を移築展示した施設ふるさと村にて、平成27年3月に秋田県の民俗信仰の神様「鹿島様」を製作し展示する事業を行った。本事例をもとに歴史資源の保全と活用について、「鹿島様」の製作展示を実施した経緯、展示の事前の準備、秋田県湯沢市末広町の関係者との調整、「鹿島様」製作の実施状況等について、時系列で整理し考察した。その結果、展示期間中の利用者の反応は、概ね好評であり、特にインターネット上での書込みが多数確認された。課題として、製作協力者が高齢であることが挙げられるが、湯沢市との協力関係は継続しており、今回使用した材料を一部再度利用出来ることなどから、次年度以降に再度製作する可能性も示唆された。

### ④観光資源の開発と展開

国営越後丘陵公園内の花による修景施設である、「香りのばら園」のマネジメント技術について実施手法ごとに整理し、利用促進や満足度向上、地域貢献や地域活性化の効果をもとに、特性や課題について考察した。

その結果、香りのばら園のマネジメント技術により、香りに着目した独自性の確立とハード・ソフト両面からの具体的展開、それを支える日常的な維持管理の実践、それを支える日常的な維持管理の実践、専門家やボランティアを始めとするステークホルダーとの連携・協働が不可欠であることが確認された。

#### (4) 地域課題受入型公園管理論

##### ① 防災、防犯の場の形成

熊本地震が発生した熊本市における五箇所の都市公園を対象に、災害時に避難者の受け入れ等の対応を行った公園愛護会等の地域住民へのヒアリング調査を実施し、災害時の避難場所としての役割と課題について考察した。その結果、都市公園は地域住民が主体の活動により避難場所として十分機能し、小学校等の避難所を補完する機能も有していたことが明らかとなった。また、災害時における防災・防犯活動により地域の状態の回復に貢献し、災害の経験を契機とした地域への参画促進により、地域の状態を向上させる媒介になることが確認された。今後の課題として、地域による防災行動を担保できる体制の継続、災害想定やそれに合わせた災害訓練の実施、施設の充実と使用法の周知であることが把握された。

##### ② 健康づくりの場の提供

都市公園は、健康遊具の設置や健康に関する利用プログラム等の充実により、健康づくりを行うための場として期待される。そこで、都市公園における健康運動利用の実態について整理し、地域課題への解決の可能性について考察した。その結果、公園で健康運動を行うためには、地域住民に対する健康づくりのための意識啓発や取り組みを継続させるための管理運営が必要であることが明らかとなった。今後の方向性として、公園を活用した新たな健康運動の取り組みを開発し普及させることにより、公園での健康運動利用を拡大させる可能性が示唆された。

##### ③ 教育、学習、子育ての場の提供

国営みちのく杜の湖畔公園における保育園・幼稚園等の利用実態について、団体利用状況調査の分析及びヒアリング調査を実施し、現状と課題について考察した。その結果、環境を活かしたプログラムの充実や遠方への積極的な周知を図ることにより、子どもたちの健全な心身の成長や社会性の向上に寄与していることが明らかになった。また、3歳以下の子どもたちや雨天に対応した施設の整備、交通サービスの充実、近隣施設への周知に関する課題が確認された。管理運営については、利用時期の傾向から、幼児の団体の利用を促進させることで平日利用の少ない公園の日常的な利用増加につながる可能性が示唆された。

#### (5) 地域連携型公園管理論

##### ① コミュニティや営みの継承

京都市下京区の下木屋町エリアにおいて、環境文化資源である高瀬川を中心とした地域の記憶を記録し「高瀬川ききみる新聞」等で発信するとともに、仏光寺公園前に川床「高瀬川ききみずガーデン」を設置し川に親しみながら新旧住民と来訪者が交流できるイベントを企画運営した。地域課題に対し、行政主導でも既存団体主導でもない有志の人的ネットワークを構築しつつ地域の風情を尊重した地域活性化の取り組みの経緯を報告し、可能性と課題を考察した。その結果、都市内の密集地における公園や河川には、地域活性化に活用すべき環境文化資源としての潜在力があること、地域の環境文化資源を中心に注がれるよそ者のアイデアやエネルギーを活かし、トライ・アンド・エラーを繰り返しながら地域への関心を喚起し続けていくこと自体が有効な地域活性化策となることが確認された。

##### ② 公園が中心のにぎわいづくり

民間事業者がカフェを出店した富山県富岩運河環水公園において、公園の整備経緯と管理運営状況、カフェの特徴と導入効果について整理し、利用活性化に及ぼす影響について考察した。その結果、公園と周辺地域の景観づくりおよび整備中に行った賑わいづくりが、全面開園後の利用活性化のベースとなることが明らかとなった。それに加えてイベントや情報発信などの管理運営や、公園の景観と調和した美しいカフェの導入を行ったことにより相乗効果が生まれ、さらなる利用活性化に影響を与えていたことが確認された。一方、北陸新幹線の開業、平成 29 年の富山県美術館のオープンなどにより、さらに公園利用者が増加することが見込まれ、現在の景観が損なわれないよう、イベント開催を調整するなど、過剰利用を防ぐ対策の必要性も確認された。

##### ③ 公園による地域振興

国営みちのく杜の湖畔公園で実施された地域連携・地域貢献を目的とした公園マネジメントの3つの実践事例を地域振興に寄与するための公園のマネジメント技術の面から整理した。その上で、概要と経緯、実施状況、課題を提示し、地域振興に寄与したマネジメント技術について、マネジメント技術の実現性、地域振興に与えた影響について考察した。その結果、みちのく公園におけるマネジメント技術により、公園や地域の資源を組み合わせることで目的に応じた手法として確立させることが必要であることが明らかとなった。また、地域に対して経済面、観光面、地域文化継承の面に影響を与えていたことが確認された。

(6) 地域指向型公園管理システムの構築と検証

① 公園管理に必要な組織と人材育成

ヒト・モノ・カネは、公園管理システムを構成し稼働させる要素であり、モノは公園施設や公園管理手法、カネは管理に必要な経費、ヒトに関する要素では組織体制や人材育成が相当する。そのうち、公園管理に関わるヒトに関する現状や取り組み等から考察した。

管理組織としては、指定管理者及び国営公園における管理受託者が相当し、公園管理の目的を達成するために、公園及び公園管理に関わる各要素（人、物、予算、仕組み、活動、ネットワーク等）を効果的に組み合わせる必要がある。そのためには、公園と周辺地域の特性を見極めつつ、公園利用状況、地域のボランティアとの連携、経営的な視点、管理技術の研究開発等を念頭に置きつつ、体制を構築することが望ましいことが考察された。

人材育成には、講習会や宿泊型の研修の受講が効果的と考えられる。研修等の実施結果から、講習会等を開催する場合は、受講者ニーズの把握とそれに即したテーマ設定、調査研究や事業の実施等を通じた新たな情報収集と提供、効果的な運営に寄与する人的なネットワーク形成の必要性が把握された。

② 地域指向型の公園管理システムの評価のあり方

地域指向型の公園管理システムを構築し、多くの都市公園で適用させていくためには、成果・効果について評価し改善につなげるための仕組みを有することが必須だと考えられる。そこで、本研究では、地域の課題解決や価値を創造するための総合的な能力の概念として、課題の解決や価値の創造等によってもたらされた、地域における上向きの状態変化に着目する「地域ポテンシャル」の現象をモデル化して用いた（図2）。

- i 回復：地域の課題を解決することでマイナス状態からゼロもしくはプラスの状態へ
- ii 拡大、活性化：地域の良さを伸ばすことで現在の状態から更なるプラス状態へ
- iii 創造：地域の新たな可能性を発見することでゼロからプラス状態へ

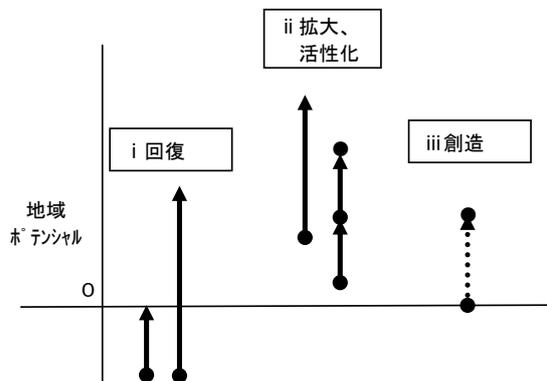


図2 地域ポテンシャルの状態変化モデル  
また、(3) (4) (5)で示した10件の公園管

理手法について、地域ポテンシャルや公園管理に役立つ特性による有効性、継続性や他の公園との共通性による実施可能性の面から評価し、整理した（表2）。

表2 管理手法と評価項目

公園管理手法	方法論	事例	有効性		実施可能性	
			地域ポテンシャルの向上	管理特性	継続性	共通性
地域波及型公園管理手法	生物多様性や環境への配慮	動植物の保全と活用	回復	○	○	○
	景観の形成	公園の修景木	創造	○	-	○
	歴史資源の保全と活用	道祖神の展示	回復 創造	○	-	-
	観光資源の開発と展開	バラ園のマネジメント	創造 拡大	○	○	-
地域課題受入型公園管理手法	防災、防犯の場の形成	災害時の避難場利用	回復	-	○	○
	健康づくりの場の提供	健康運動の利用	回復 創造	○	-	○
	教育、学習、子育ての場の提供	幼児の利用	回復 拡大	○	○	○
地域連携型公園管理手法	コミュニティや営みの継承	地域活性化イベントの実施	回復	○	-	-
	公園が中心の「にぎわいづくり」	飲食施設の導入と経営	創造	-	○	-
	公園による地域振興	地域振興の取り組み	回復 活性化	○	○	○

③ 公園管理システムの構築と検証

研究成果及び既往研究の成果をもとに、地域指向型の公園管理システムの概念モデルを構築した。本概念モデルは、社会ニーズ及び「地域」を包む「社会」、地域の課題、地域振興策を含む「地域」、公園の理念、公園が有する自然や施設、人員体制、予算を含む「公園の与条件」、事前調査から改善検討までの流れで実施する「公園管理」、地域ポテンシャル及び実施可能性を含む「評価の観点」の要素で構成される。公園管理システムのサイクルを稼働させるためには、公園の与条件や社会ニーズや地域の課題を踏まえて地域内の関係者と連携・協力しながら計画・実施・評価・改善することが求められる。計画時及び事後評価を行う際には、地域ポテンシャルによる有効性の評価が必要である。

また、国営みちのく杜の湖畔公園の管理センター職員を対象としたヒアリング結果をもとに、公園管理システムの課題や改善点、他の公園での実現可能性について検証した。その結果、指摘事項を踏まえて留意すべきポイントは、動植物の保全・活用、サクラの名所づくり、観光連携、地元からの購買、障がい者の雇用、子どもの教育の場の提供、新規活動の導入、ボランティア等の高齢化、評価方法、職員の人材等であることが確認された。

④ 今後の課題

みちのく公園における管理運営の課題と

して、管理に必要な経費の確保、関係者の高齢化、管理ノウハウの蓄積と継承等による管理の継続性確保、コミュニケーションによる信頼性獲得やニーズの把握等による地域との関係性構築、新規性や独自性のある挑戦的な取り組みを実施や健康運動・医療・福祉分野の応用や連携等による新規事業等の導入であることが確認された。また、地域指向型の公園管理システム実用化の課題として、地域ポテンシャルの定量化や効果を説明する指標の設定等による評価のあり方、継続性自体の評価やライフサイクルコストを勘案する等の時間軸の設定、組織体制や必要経費の確保のあり方も含めた公園管理システムの体系化や全体のシステムを有機的に機能させる総合化の検討であることが確認された。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計12件)

- ①平松玲治、青木明代ほか2名、国営越後丘陵公園における「香りのばら園」のマネジメント技術、日本造園学会造園技術報告集、査読有、第8号、2015、pp. 50-55
- ②平松玲治、土方敏彦ほか3名、国営みちのく杜の湖畔公園における動植物の保全と活用について、公園管理研究、査読無、第8巻、2015、pp. 21-28
- ③平松玲治、松本圭代、土方敏彦ほか3名、国営みちのく杜の湖畔公園におけるステークホルダーとの関係性と課題、公園管理研究、査読無、第9巻、2016、pp. 28-37
- ④嶺岸さゆり、平松玲治、民間事業者によるカフェの導入までの経緯と公園の利用活性化について—富岩運河環水公園を事例に—、公園管理研究、査読無、第9巻、2016、pp. 54-63
- ⑤松本圭代、平松玲治、国営みちのく杜の湖畔公園における幼児の団体利用に関する考察、公園管理研究、査読無、第9巻、2016、pp. 64-71
- ⑥青木明代、平松玲治、都市公園の修景木における環境保全及び地域振興に関する効果、公園管理研究、査読無、第9巻、2016、pp. 72-78
- ⑦森本千尋、平松玲治、都市公園の管理運営における地域貢献について、公園管理研究、査読無、第9巻、2016、pp. 89-92
- ⑧平松玲治、青木明代、土方敏彦、国営みちのく杜の湖畔公園における地域振興に寄与するマネジメント技術、日本造園学会造園技術報告集、査読有、第9号、2017、pp. 102-105、
- ⑨堀江典子、都心部における環境文化資源を活かした地域活性化の取り組み、公園管理研究、査読無、第10巻、2017、pp. 17-23
- ⑩平松玲治、青木明代、熊本地震における避難場所としての都市公園の役割と課題、公園管理研究、査読無、第10巻、2017、pp. 24-30
- ⑪青木明代、平松玲治、都市公園における災害時の措定管理者等の役割に関する考察、公

園管理研究、査読無、第10巻、2017、pp. 31-38  
⑫土方敏彦、平松玲治、国営みちのく杜の湖畔公園における巨大蕈人形の展示について、公園管理研究、査読無、第10巻、2017、pp. 59-63

〔学会発表〕(計3件)

- ①平松玲治、国営武蔵丘陵公園における実務者向け講習会、平成26年度日本造園学会関東支部大会(山梨大学)、2014.11.9
- ②平松玲治、実務者向け講習会の公園管理運営フォーラムについて、平成27年度日本造園学会関東支部大会(水と緑の市民カレッジ)、2015.11.22
- ③Sayuri MINEGISHI, Reiji HIRAMATSU, Influence of a Cafe Set Up in a Urban Park by Private Business Operators on Park Use, The 15th International Landscape Architectural Symposium of Japan, China, and Korea in Tokyo (The University of Tokyo), Poster Presentation, 2016. 10. 30

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

平松 玲治 (HIRAMATSU, Reiji)  
(一財)公園財団(公園管理運営研究所)・  
開発研究部・上席主任研究員  
研究者番号: 50455482

##### (2) 研究分担者

森本 千尋 (MORIMOTO, Chihiro)  
(一財)公園財団(公園管理運営研究所)・  
客員研究員  
研究者番号: 40455481

##### (3) 研究分担者

堀江 典子 (HORIE, Noriko)  
佛教大学・社会学部・准教授  
研究者番号: 70455484

##### (4) 研究分担者

青木 明代 (AOKI, Akiyo)  
(一財)公園財団(公園管理運営研究所)・  
開発研究部・主任研究員  
研究者番号: 10638779

##### (5) 研究分担者

土方 敏彦 (HIJIKATA, Toshihiko)  
(一財)公園財団(公園管理運営研究所)・  
みちのく公園管理センター・利用指導リ  
ーダー  
研究者番号: 80650118

##### (6) 研究協力者

嶺岸 さゆり (MINEGISHI, Sayuri)

##### (7) 研究協力者

松本 圭代 (MATSUMOTO, Kayo)